

◇自己評価点と委員の評価点が異なり、かつ委員からの意見が多かった取組

基本目標 1 地域で活躍する福祉人材を育む「人づくり」															
施策	事業名	ページ	実施主体	事業内容（主な取組み）	担当課	目標・指標等			具体的な取組／事業推進に向けた取組	課題・今後の取組方針等	自己評価	推進委員会		担当課回答	評価
						R6	R7					意見	評価		
(2) ボランティア活動の推進	①ボランティアセンター運営	43	市	社会福祉協議会の取組に対し、継続して支援を行います。	地域福祉推進室	社会福祉協議会への活動支援事業補助金	目標値	実施	実施	<b>【具体的な取組】</b> ・社会福祉協議会のボランティアセンター運営事業に対する補助金の交付令和6年度の補助金実績：609,000円 ※主な内容：ボランティア情報紙「くれよん」発行に係る印刷製本費、通信運搬費など  <b>【事業や取り組みを推進するために新たに工夫した点】</b> ボランティアセンター別館の施設全体の円滑な運営と管理を行う常駐の施設管理者に対する人件費補助を実施した。	<b>【課題と今後の取組方針】</b> （今後の取組方針） ・ボランティア活動は地域福祉を推進する上で大きな役割を担うことから、引き続き、ボランティアセンター運営事業に対し、適切な補助金交付を行う。 ・ボランティアセンター別館は令和7年6月末を以て機能廃止する。 ボランティアセンター別館は、平成9年に新設されたバリアフリー生活館の跡地を活用して運用しており、設置から28年が経過している。施設は一部で床の腐食や雨漏りが生じ、老朽化による継続利用と名切地区の再整備に伴う、施設の継続利用が不透明といった課題が生じていることから、社会福祉協議会及び利用団体で協議した結果、機能廃止の判断を行った。	3	4	本取組については、補助金の適正な使用が行っており、特に課題はないが、高く評価すべき新たな取組も見られないため、評価基準に基づき「3」としている。	3
						実績値	実施		3				ボランティアセンター別館は諸事情による、社協及び利用団体で協議した結果、令和7年6月末を以て機能停止されていますが、今後も別館に代わる施設は不要とお考えでしょうか。そうであればその理由をお示しください。		
						達成度	—		本市には、ボランティア団体等が活動を行う場所として、市民の活動拠点の「させぼ市民活動交流プラザ」や「佐世保市福祉活動プラザ」の他、公民館から活動の幅が拡充された「各地区コミュニティセンター」など、ボランティアセンター別館開設以降に活用できる施設の拡充もあるため、代替施設は不要と考える。 ※利用団体は既存施設等を活用し、今後の活動を継続される。 なお、令和6年度ボランティアセンター別館を利用した団体は7団体						

◇自己評価を「2」とした取組

基本目標 1 地域で活躍する福祉人材を育む「人づくり」																
施策	事業名	ページ	実施主体	事業内容（主な取組み）	担当課	目標・指標等	R6	R7	具体的な取組／事業推進に向けた取組	課題・今後の取組方針等	自己評価	推進委員会		担当課回答	評価	
												意見	評価			
(2) ボランティア活動の推進	②ボランティア育成と活動支援	44	社協	①各種ボランティア講座及び研修会の開催	地域福祉課	各種講座の参加者数	目標値	80名	100名	<b>【具体的な取組】</b> ○ボランティア入門講座 日時：令和6年6月15日（土） 10：30～12：00（予定15名） 場所：させば市民活動交流プラザ会議室A（参加者8名） ○ボランティア実践講座 ・第1回：令和6年10月26日（土） 10：30～12：00（予定20名） 場 所：広田地区コミュニティセンター第1講座室（参加者15名） ・第2回：令和6年11月27日（水） 10：30～12：00（予定20名） 場 所：まちなかコミュニティセンター第3講座室（参加者17名） ・第3回：令和6年12月21日（土） 10：30～12：00（予定25名） 場 所：大野地区コミュニティセンター第2講座室（参加者25名）  <b>【事業や取り組みを推進するために新たに工夫した点】</b> ・各種講座の会場を交通アクセスの良い新たな会場へ変更し、参加希望者が集まりやすいように会場を設定した。 ・グループディスカッションやワークショップを取り入れるために会場内の動線や座席配置を工夫し、快適な受講環境を整備した結果、参加者の満足度向上につながり「また参加したい」という意見が聞かれた。	<b>【課題と今後の取組方針】</b> （課題） ・各種講座を開催するにあたり、より多くの方に参加してもらうためには、講座内容や広報手段などについても見直し、参加しやすい日程設定などが課題としてあげられる。  （今後の取組方針） ・会場のさらなる分散やオンライン講座の導入など、参加者の利便性を高める方策を検討していく。また、広報手段の見直しや内容の多様化を図ることで、より多くの市民に参加を促していく。	2	1つひとつの参加予定数から目標値100名が算出されているのか。各回の目標値が提示されるとより評価がしやすい。	2	各講座の収容定員の半数の参加を見込み、合計を目標値として設定した。委員の意見を踏まえ、各講座の目標値については【具体的な取組み】に追記した。次年度は、特に入門講座の参加者増を目指し、ボランティア活動に参加するためのきっかけづくりに力を入れていく。参加人数が目標値に達していないこと、今後は1人でも多くの方に参加していただくために左記の課題に対する取組み、工夫が必要となることから評価基準に従い、評価は2とした。	2
							実績値	65名								
							達成度	81%								

◇自己評価点と委員の評価点が異なり、かつ委員からの意見が多かった取組

(4) 地域住民の交流活動の活性化	①気軽に地域で交流できる機会の創出	46	社協	②「コミュニティカフェ」の設置運営	地域福祉課	コミュニティカフェの設置・運営	目標値	設置	運営	<b>【具体的な取組】</b> 鹿町町にある旧調剤薬局を買収し、1階部分をコミュニティカフェとして令和7年1月26日（日）プレオープン、同月30日（木）から運営（3日/週）を開始。  <b>【事業や取り組みを推進するために新たに工夫した点】</b> ①Caféカウンターを佐世保工業高等学校建築科に依頼し学生による設計・制作を実施。また、最終仕上げ(表面部分のパーツを貼る)作業を鹿町小学校5年生と協働作業にて完成。 ②住民参加型をコンセプトに掲げ、Caféで使用する珈琲カップは贈答品など使用していないカップを市民から寄付。 ③また、以下の4つの経営コンセプトを設け、具現化するためプロジェクトチーム(当初4名→7名)を設け推進。 i 多様な価値観を感じられる ii 情報リテラシー（学び・教える)を高められる iii 1人でも気軽に利用できる iv 地域コミュニティが運営に加わることができる	<b>【課題と今後の取組方針】</b> （課題） ①広報(社協だより、Instagram)活動は実施しているものの、立地的な面もあり集客に課題あり。 ②来店者同士の『つながり・接点』を作り出すための仕掛けづくりをどう展開するか。 ③ひきこもりの若者が活動できる場をどうつくるか。  （今後の取り組み） ①常設型の運営を実施する。 ②親子で参加できるイベントを開催し周知を図る。 ③鹿町工業高等学校に参画いただき、産学福の連携事業を実施する。 ④語りべCaféを開催し、自閉症家族などをゲストに招き、障害に対する理解を深める。 ⑤サブスクリプションを取り入れ、利用しやすい仕組みを検討する。	4	設置がなされたという点において評価されるが、今後の課題は多く、それへの対応が難しいと推察される。	3	R6年度は、週3日開設していたが、今年4月からは月曜日～土曜日うち週5日開店している。現在は、社協だよりやSNSなどによるPR効果が徐々に増えており、町内外から来店され、4月～10月までの段階で1日平均7.4名の客が来店している。また、つながり・交流の場をつくるため、様々なイベント(別紙)を開催し、つながるための場を展開している。ひきこもりの若者の参加は今のところないが、ひきこもりの若者が製作した絵画や小物類、障害者施設で作ったクッキー等を展示・販売を行い、かたちを変えた参加となっている。課題については、想定範囲内であり、今年度の取り組みに於いてほぼ実施出来ていることから、評価を4とした。	4
							実績値	1箇所								
							達成度	100%								
									鹿町町にて令和7年1月30日（木）から運営を開始されていますが、今後他地域への設置・運営の計画がありましたらお示しく下さい。	4	現段階では予定はない。但し、1年経過した段階で本事業の検証を行い、今後設置するか否かの協議・検討を進め判断する。					

当日審議対象の主な取組

◇自己評価が「2」の取組

基本目標2 誰もが相互に理解を深め地域の課題を共有し、課題解決に向けて共に取り組む「地域づくり」															
施策	事業名	ページ	実施主体	事業内容（主な取組み）	担当課	目標・指標等			具体的な取組／事業推進に向けた取組	課題・今後の取組方針等	自己評価	推進委員会		担当課回答	評価
						R6	R7					意見	評価		
(4) 暮らしの安全・安心をまもる体制づくり	③災害時避難行動要支援者支援事業の推進	58	市	④災害時個別避難計画の作成及び避難支援等関係者との連携体制の構築	地域福祉推進室	目標値	40%	74%	<b>【具体的な取組】</b> 災害時個別避難計画の作成に取り組んだが、福祉専門職等への委託が思うように進まず、進捗が図れなかった。  <b>【事業や取組を推進するために新たに工夫した点】</b> 地域調整会議によって個別避難計画を作成する取組における、作成希望者が想定より少なかったため、支援の度合いが高い方をケアマネ等への確認により絞り込んだ上で計画作成に取り組んだ。また、本人記入型を併用した個別避難計画作成を行うための次年度予算への対応を行った。	<b>【課題と今後の取組方針】</b> 個別避難計画作成の取組をできるだけ多くの避難行動要支援者に拡大していくことが必要。	2	意見	2	福祉専門職におけるマンパワー不足を理由として委託は困難と判断している。	2
						実績値	0.50%					福祉専門職への委託とありますが、具体的にどの業種でしょうか。避難計画の策定は難しいと思いますが、委託時にその専門職の方へ策定に向けたアドバイスなどされたのか。また、主旨から外れますが本人記入型の個別避難計画作成への予算とありますが、支援度合いの強い方の本人記入型計画策定のハードルは高いと思われるのですが、進捗率上昇に向けた方策があるのでしょうか。	▼ケアマネジャー・相談支援事業所等の福祉専門職に委託したいとの考えがあった。  ▼実際に委託には至っていないため、ケアマネジャーに対して個別のアドバイス等は実施していないが、委託に向けて協議する中で、マンパワーの確保に課題が挙げられたため、ICT導入による事務の簡素化、既存のアセスメント情報を活用して、計画を画一的に作成するための作成フォームの提案等をして、再度の協議に臨んだ。  ▼本人による記入が難しい方には、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、相談支援事業所に対し、記入や提出のご助言や支援をお願いする文書を発送し、可能な限りのご協力をいただきたいと考えている。  また、介護・支援の度合いの高い方については、避難時の介助・移送等に専門的な支援が必要になると考えられるため、日頃から支援されている事業者、福祉専門職等の協力なくして、実効性のある避難計画の策定は困難と考えており、今後連携していきたいと考えている。		
						達成度	1.3%								

当日審議対象の主な取組

◇自己評価点と委員の評価点が異なり、かつ委員からの意見が多かった取組

基本目標2 誰もが相互に理解を深め地域の課題を共有し、課題解決に向けて共に取り組む「地域づくり」																	
施策	事業名	ページ	実施主体	事業内容（主な取組み）	担当課	目標・指標等			具体的な取組／事業推進に向けた取組	課題・今後の取組方針等	自己評価	推進委員会		担当課回答	評価		
						R6	R7					意見	評価				
(1) 住民相互による地域活動の推進	③コミュニティビジネスに関する検討と実践	50	社協	①コミュニティビジネスの研究・実践 ②コミュニティビジネスの実践	地域福祉課	コミュニティビジネスの実践	目標値	実践	継続	<p>【具体的な取組】</p> <p>あらゆる多世代や文化の違うコミュニティが農業を通じて交流できる「地域の居場所」を創出することを目的に世知原町開作において「つながる農園」を実施した。</p> <p>○プロジェクト会議の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全7回実施し、行事の企画や田んぼの管理、事業運営について話し合いを行った。</li> <li>○参加者との交流行事</li> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社協ホームページ、タウン誌「ならでわ」で募集した34名（定員30名）の参加者と田植え体験、稲刈り体験、収穫祭、講演会を通じて交流を行った。</li> <li>○収穫したお米のうち、佐世保市子ども食堂ネットワークに45kg（1グループ5kg×9グループ分）のお米を寄贈した。</li> </ul> </ul> <p>【事業や取り組みを推進するために新たに工夫した点】</p> <p>○住民が主体である事業の意識づけのため、プロジェクト会議を中心に企画等を行った。</p> <p>○参加者との交流行事等を社協ホームページ、社協公式Instagramに掲載するとともに、報道機関へも取材依頼を行い、広く事業の広報を行った。</p>	<p>【課題と今後の取組方針】</p> <p>（課題）</p> <p>○プロジェクトメンバーの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトではイベント企画、農園の管理等を行っているが、メンバーの高齢化、後継者（担い手）不足もあり、事業継続も懸念される。</li> <li>○ひきこもりの状態にある方や障がいのある人が参加できるような仕組みになっていない。</li> <li>・農園が中山間地で現在は、公共交通機関も通っていない状況である。</li> <li>・農園での作業がイベントを除くと合鴨の餌やり等あまり時間を要しない作業が多く、長い移動時間をかけてまで来て行う効果が見込めない。</li> <li>○イベント実施に際し、参加者の方から開催案内の時期や他のイベントとの重複、アンケートの実施などについて意見をいただいたことから、改善する必要がある。</li> </ul> <p>（今後の取組方針）</p> <p>○地元の方を中心に、協力が可能な方に個別で依頼を行うと同時に、農園参加者に対しても、イベント以外での農園協力の呼びかけを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協力者を確保することで、農園の管理を複数人で行う体制の整備に加え、活動メニューの開発や交流のイベントを増やすことで、農園への来園者を増やし交流機会を拡大する。</li> <li>○農園で行う作業の創出をプロジェクトで検討するとともに、移動手段や移動に伴う費用負担について、財源やルール（要綱等）について研究する。</li> <li>○最初のイベントとなる田植え体験の際に、稲刈り、収穫祭のおおよそのスケジュールの共有、学校行事や地域行事の確認を行い、参加者が参加しやすい日程調整を行う。また、アンケートを実施し、次年度以降の活動に反映する。</li> </ul>	4	意見	4	プロジェクトメンバーは、地元農家や元営農指導員の3名と社協職員3名で構成している。全7回のプロジェクト会議はメンバー全員参加で開催している。	4	
							実績値	実践					意見	3			本事業は、ビジネスといっても地域の課題を解決するための資金を地域福祉活動の一環として実施しており、子ども食堂ネットワーク等へお米の寄贈を行った。令和6年度のお米の販売収益は約34万円の収益を得ている。今後、当該地域はバス路線の廃止など課題も多く、今後移送サービス等を実施するためには、複数年度収益をプールし地域課題の解決に向け運用していくこととしており、初年度の事業運営としての評価は4とする。
							達成度	—					意見				

◇自己評価より委員の評価が高く、かつ「5」に変更した取組

基本目標3 すべての人を包括的に支えるために、人と人、人と社会資源が「つながる仕組みづくり」																
施策	事業名	ページ	実施主体	事業内容（主な取組み）	担当課	目標・指標等			具体的な取組／事業推進に向けた取組	課題・今後の取組方針等	自己評価	推進委員会		担当課回答	評価	
						R6	R7					意見	評価			
(2) 福祉サービスの充実	③子育て支援の充実	63	市	母子保健の推進（保護者が安心して妊娠・出産・子育てができるための支援体制の整備）	すこやか子どもセンター・子ども発達センター	乳幼児健康診査受診率	目標値	96%	96%	<b>【具体的な取組】</b> 安心して妊娠、出産、子育てができるよう切れ目ない支援を行うとともに、児童虐待の防止等の観点から、育児不安の軽減に資する様々な取組を行った。 ○育児相談指導事業 ○健康診査事業（子ども） ○母子保健医療サービス事業 ○安心出産支援事業 ○子ども子育て応援事業 ○助産施設措置事業 ○母子生活支援施設措置事業 ○子ども発達センター事業 ○児童発達支援センター運営事業（すぎのご園）  <b>【事業や取り組みを推進するために新たに工夫した点】</b> ・令和6年4月に母子保健と児童福祉による一体的支援を担う「すこやか子どもセンター」を設置し、全ての妊産婦、子ども、子育て世帯に寄り添いつつ、妊娠、出産、子育てに至る切れ目ない支援の充実を図った。 ・また、支援の対象を拡大し、不妊に悩む方への特定治療支援事業を開始し、産前・産後の妊産婦への支援として、産前・産後家事育児支援事業を実施するなど、妊娠活動期から子育て期にわたるまで、支援の更なる強化を図った。	<b>【課題と今後の取組方針】</b> 子どもや子育て家庭を支えてきた地域社会における子育て機能の低下を受け、妊娠、出産、子育て等の面で市民ニーズが多様化している。 また、児童虐待について、市民の意識の高まりなどから、虐待に係る相談や通告等が増加する傾向にある。 そのため、安心して妊娠、出産、子育てができるよう切れ目のない支援を行うとともに、児童虐待の未然防止等の観点から、育児不安の軽減に資する様々な取組を推進する。	4	この分野は、新たな課題等も生まれるかもしれないが、すこやか子どもセンターの設置や、対象拡大を図った点は高く評価できる。今後の更なる発展に期待したい。	5	今後も引き続き、母子保健の推進に向けて、すべての妊産婦、子ども、子育て世帯に寄り添いつつ、妊娠、出産、子育てに至る切れ目ない支援を充実させていく。	5
							実績値	97%								
							達成度	101%								

◇その他（委員の評価点が定まっておらず説明が必要な取組）

(3) 権利擁護の推進	①権利擁護に関する相談対応の充実	65	社協	①各相談事業（日常生活自立支援事業、成年後見制度促進事業、生活困窮者自立相談支援事業等）による対応の充実 ②成年後見支援員、生活支援員の養成を行い、支援体制の強化につなげる ③制度の周知（広報紙、ホームページ、パンフレット）	総合相談支援課	後見支援員養成講座修了者数（累積）	目標値	65人	65人	<b>【具体的な取組】</b> 地域における判断力の低下した高齢者や障がい者等の見守り支援という役割に重点を置いた成年後見支援員を養成し、地域で活躍できる場を検討した。 ・成年後見支援員養成講座の開催（市委託事業） 基礎課程：令和6年10月19日・26日 基礎課程修了者5名 応用過程：令和6年11月16日・30日 応用課程修了者38名  <b>【事業や取り組みを推進するために新たに工夫した点】</b> フォローアップ研修会を実施し、他市の成年後見支援員養成講座修了者の取り組みについて説明を聴き、本市においてはどのような活動ができるかについての意見交換を行った。 ・令和6年7月20日（土）開催 参加者：22名	<b>【課題と今後の取組方針】</b> （課題） ・後見人等の担い手について将来不足することが予測されており、引き続き担い手の確保、育成等に努める必要があるが、その一方ですぐに活躍できる場がない。  （今後の取組方針） ・地域での活動や後見人等としての活躍の場の検討をすべく、先進地の視察を行い活動体制の構築を検討していく。 ・市民後見人はもとより地域での見守り支援や法人後見等の支援員など活躍の場の支援体制作りに努める。	3	目標値や実績値は何を表しているのか。（R6の実績値が78名に対し、R7の目標値が65名となっているため、確認したい）。累積が着実に20%増え、フォローアップ研修も22名が受けたのであれば、評価を4としたい（そうでなければ3）。	3もしくは4	目標値は、「佐世保市老人福祉計画・第9期佐世保市介護保険事業」によるもので、実績値は、平成25年度からR6年度までの計3回実施した養成講座の修了者である。フォローアップ研修会では名簿登録者を対象に、養成講座修了後も権利擁護等に関する研修を実施し、登録者の研鑽に努めている。委員のご意見を踏まえ、評価は4としたい。	4
							実績値	78人								
							達成度	120%								